



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月5日

上場会社名 株式会社ゴールドウィン 上場取引所 東  
 コード番号 8111 URL https://www.goldwin.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 貴生  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 白崎 道雄 TEL 03-3481-7203  
 管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	21,099	23.5	2,266	99.6	3,368	98.5	2,603	110.8
2022年3月期第1四半期	17,078	40.0	1,135	—	1,696	—	1,235	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 3,636百万円 (99.6%) 2022年3月期第1四半期 1,821百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	57.74	—
2022年3月期第1四半期	27.23	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	94,125	65.8	62,008	65.8	62,008	65.8
2022年3月期	99,085	63.9	63,411	63.9	63,411	63.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 61,914百万円 2022年3月期 63,278百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	20.00	—	65.00	85.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	25.00	—	65.00	90.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	44,400	16.2	3,900	18.2	5,900	53.8	4,130	56.9	91.58
通期	106,000	7.9	17,000	3.0	21,400	5.5	16,000	11.5	354.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	47,448,172株	2022年3月期	47,448,172株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	2,450,606株	2022年3月期	2,202,276株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	45,096,981株	2022年3月期1Q	45,365,674株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染者数が減少傾向をたどる中、行動制限の緩和により経済活動の再開に向けた動きが全国的に広がりました。一方、2022年2月からのロシアによるウクライナ侵攻の影響によって、世界的な原材料価格の高騰を招き、幅広い商品に値上げの動きが見られました。また為替相場においては急激な円安の進行に伴う輸入コストの増大や、世界的な貿易港である上海が3月末から約2か月間に及ぶロックダウンによってサプライチェーンに大きな影響を与えるなど、景気の先行きは依然として予断を許さない状況で推移しました。

このような状況下、当社グループにおきましては、第1四半期（4月～6月）は、緊急事態宣言等の発出がなく、外出機会が増加したことで個人消費は持ち直しの動きが認められました。その中でも、THE NORTH FACE等が展開するアウトドア関連では、高機能ウェアに加えて、キッズやレディース等のライフスタイル向けウェアが堅調に推移しました。また、バックパック、シューズ等の幅広いグッズ関連商材も堅調な伸びを示したことから、売上高は、前年同期比23.5%増となる21,099百万円と、第1四半期としては過去最高売上高を記録しました。

営業利益は、上記の通り、製造原価の上昇及び物流コスト等の販売費及び一般管理費の上昇要因が幅広い品目に影響を与え始めております。こうした状況下、調達面では、素材メーカーとの長年に亘る共同開発の関係性を構築していることから、主力素材の多くについて長期契約を締結し、春夏商材の価格影響を最小限にとどめることができました。また生産面では、アウトドアウェアを中心とした年間定番品について閑散期を利用した計画生産によって製造原価の低減を進めております。なお、上海でのロックダウンによって、一部商材で空輸対応による物流費の増加を招いたものの、春夏商材の多くはロックダウン前に国内に入荷していたことから、物流費の上昇は限定的となり、売上総利益率は前年同期比0.1ポイント増の52.7%となり、費用増加分を吸収し、営業利益は前年同期比99.6%増の2,266百万円となり、第1四半期としては過去最高を記録しました。このように、長期間をかけて素材メーカー、卸先等との連携によって取り組んできた実需型ビジネスモデルが不測の事態にあっても、原材料の調達から顧客への販売に至る一連の「価値の連鎖」において強固さを発揮することができました。

経常利益は、営業利益の増益に加え、韓国における持分法適用関連会社であるYOUNGONE OUTDOOR Corporationの業績が好調に推移したことを主因に、前年同期比98.5%増の3,368百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益についても、上記の取り組みが奏功し、前年同期比110.8%増の2,603百万円となり、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても、それぞれ第1四半期決算としては過去最高を更新することができました。

なお、当第1四半期中の2022年4月23日～5月29日の約1か月に亘り、六本木の東京ミッドタウンにおいて、地球と遊ぶ、スポーツの原体験をテーマとした「PLAY EARTH PARK」を開催しました。このイベントでは、建築家とのコラボレーションによって設計した遊具を設置し、開催期間中の来場者数は34,000人を上回り、中期経営計画で掲げたPLAY EARTHの考えを体現するイベントを実施することができました。「PLAY EARTH PARK」のイベントは、創業の地である富山県に遊具を移転し、2022年7月23日～8月14日、富岩運河環水公園、富山県美術館にて開催します。本件のような集客イベントの多くをコロナ禍での約2年間は開催を見送ってきましたが、今後は新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら開催を進めていきたいと考えております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は94,125百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,960百万円減少しました。これは主に、投資有価証券が1,926百万円、未収入金が1,353百万円増加したものの、現金及び預金が5,672百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が2,483百万円減少したためであります。

負債合計は、32,117百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,556百万円減少しました。これは主に、電子記録債務が1,450百万円増加したものの、未払法人税等が2,668百万円、支払手形及び買掛金が1,762百万円減少したためであります。

純資産合計は、62,008百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,403百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益2,603百万円を計上したものの、自己株式が1,951百万円増加し、配当金の支払いが3,041百万円あったためであります。なお、自己資本比率は65.8%となっております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期第2四半期連結業績予想につきましては、THE NORTH FACEを中心としたアウトドア関連商材の販売が好調に推移し、期初の見通しを上回ることから、売上高・利益について修正するものであります。

なお、前述の通り、販売動向は期初の見通しを上回って推移しているものの、為替や原材料価格の高騰及び物流コストの上昇等による影響に加えて、7月中旬以降からの「第7波」による感染者数の急拡大によって、当連結会計年度の下半期においても予断を許さない厳しい状況が続くことが想定されます。そのため、通期連結業績予想については、期初見通しを変更せず、今後の業績推移等から修正が必要と判断した場合に速やかに開示することいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	26,406	20,734
受取手形、売掛金及び契約資産	11,032	8,548
電子記録債権	2,797	3,069
商品及び製品	12,554	12,194
仕掛品	326	247
原材料及び貯蔵品	542	571
その他	1,841	3,059
貸倒引当金	△13	△8
流動資産合計	55,486	48,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,718	2,304
土地	4,691	4,691
その他（純額）	2,231	1,803
有形固定資産合計	8,642	8,799
無形固定資産		
商標権	1,490	1,420
その他	1,602	1,690
無形固定資産合計	3,093	3,110
投資その他の資産		
投資有価証券	24,060	25,986
差入保証金	2,708	2,692
その他	5,282	5,308
貸倒引当金	△188	△188
投資その他の資産合計	31,862	33,798
固定資産合計	43,598	45,707
資産合計	99,085	94,125

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,904	3,141
電子記録債務	12,223	13,673
1年内返済予定の長期借入金	1,437	1,183
未払法人税等	3,112	443
賞与引当金	1,648	2,107
その他	7,060	6,542
流動負債合計	30,386	27,093
固定負債		
長期借入金	2,751	2,490
退職給付に係る負債	217	200
株式給付引当金	947	958
その他	1,371	1,373
固定負債合計	5,287	5,024
負債合計	35,673	32,117
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,079	7,079
資本剰余金	276	276
利益剰余金	61,356	60,918
自己株式	△5,377	△7,329
株主資本合計	63,335	60,945
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	480	521
繰延ヘッジ損益	98	186
為替換算調整勘定	196	1,052
退職給付に係る調整累計額	△830	△790
その他の包括利益累計額合計	△56	969
非支配株主持分	132	93
純資産合計	63,411	62,008
負債純資産合計	99,085	94,125

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	17,078	21,099
売上原価	8,091	9,976
売上総利益	8,986	11,122
販売費及び一般管理費	7,851	8,855
営業利益	1,135	2,266
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	35	41
持分法による投資利益	558	1,080
その他	31	34
営業外収益合計	627	1,157
営業外費用		
支払利息	23	9
手形売却損	8	4
保険解約損	17	—
その他	17	41
営業外費用合計	66	55
経常利益	1,696	3,368
特別利益		
固定資産売却益	0	—
投資有価証券売却益	14	5
子会社清算益	—	80
特別利益合計	15	85
特別損失		
店舗閉鎖損失	0	1
その他	0	—
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	1,711	3,452
法人税、住民税及び事業税	449	658
法人税等調整額	16	182
法人税等合計	466	841
四半期純利益	1,244	2,610
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,235	2,603

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,244	2,610
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△179	41
繰延ヘッジ損益	△8	47
為替換算調整勘定	157	72
退職給付に係る調整額	127	44
持分法適用会社に対する持分相当額	479	820
その他の包括利益合計	576	1,025
四半期包括利益	1,821	3,636
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,811	3,629
非支配株主に係る四半期包括利益	9	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2022年2月8日開催の取締役会において、会社法第459条第1項及び当社定款第36条の規定に基づく自己株式の取得を決議し、2022年6月30日までに自己株式293,000株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が1,951百万円増加しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計基準の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これに伴う影響はありません。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)および当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年6月30日)

当社グループは、スポーツ用品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。